

『図書館制度・経営論』（図書館の基礎と展望シリーズ第5巻）（学文社）

2013年度～

科目概要

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策、図書館行政について学ぶとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 「図書館法」に関わる法体系を理解する
2. 「図書館法」を理解する
3. 図書館条例等を理解する
4. さまざまな館種の図書館の根拠法とその背景を理解する
5. 図書館サービスに関わる一連の関連法規について理解する
6. 図書館政策について理解する
7. 図書館経営の視点を養う
8. 図書館経営のための組織、館長の役割、人的体制、予算について理解する
9. 図書館に関わるさまざまな団体について理解する
10. 図書館評価の必要性とその実際を学習する

■ 科目の学習要点事項

1. 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、社会教育法
2. 図書館法
3. 学校図書館法、国立国会図書館法
4. ユネスコ公共図書館宣言、ユネスコ学校図書館宣言
5. 図書館条例
6. 図書館経営
7. 図書館行政
8. 図書館評価

（図書館の設置及び運営上の望ましい基準、図書館パフォーマンス指標）

参考文献

- ①「平成 21 年度通常国会 著作権法改正等について」文化庁
http://www.bunka.go.jp/chosakuken/21_houkaisei.html
- ②「著作権法改正と障害者サービス」『図書館雑誌』Vol.104, No.9, 2010.9
から不定期連載中
- ③『これからの図書館像：地域の情報拠点として(報告)』文部科学省、2006
http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286184/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701/009.pdf
および
『これからの図書館像(実践事例集)』文部科学省、2006
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/06040715.htm
- ④「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(テキスト付録)
- ⑤糸賀雅児「図書館評価の現状と課題：パフォーマンス指標の活用に向けて」『特集 図書館パフォーマンス指標と経営評価の国際動向』『現代の図書館』
Vol.40, No.3,2002.9, pp.124-128
- ⑥「特集 図書館評価を活かす」『図書館雑誌』Vol.101, No.8, 2007.8

評価基準

■レポート評価

- ・特にこの科目については、自分自身でデータや報告書を入手した上で、さらに自分で分析しなければ作成できない課題が多いため、負担が大きい。しかし、実際の図書館で仕事をする上で、また、サービスを考える上で欠かすことができない部分であるので、大変だが、ぜひとも、頑張ってもらいたい。
- ・レポート作成の際には、「レポート課題・レポート作成に当たっての解説」を熟読の上、レポート課題が求める学習の要点を理解し、その要点を中心にまとめること。
- ・内容が主観的すぎるものについては不合格となる。テキストを熟読の上、内容をよく咀嚼してまとめること。また、参考文献などにも積極的にあたってレポートを作成すること。
- ・他人の著作物(Web 上のものを含む)から引用する場合は、引用箇所を明記し、その出典を明らかにすること。Web 上の情報の場合には、URL とアクセス日を明記すること。
- ・単なるテキストの書き写しや要約、盗作や剽窃は評価の対象とせず、判明した時点で即不合格とする。

■科目終了試験評価

- ・科目の学習要点事項についてしっかり学習した上で、出題の主旨を理解し、求められている設題についてきちんと回答すること。科目の学習要点事項を踏まえていない場合には、自身の経験や自説をいくら述べても評価されない。
 - ・設題にはすべて回答すること。一方の設題について回答していない場合には、もう一方の回答がすばらしくても不合格となる。
- 直接レポート課題で取り上げていなくても、テキスト各章末の設問には取り組み、重要事項については理解を深めておくこと。

使用テキスト

配本年度

『図書館情報技術論(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望2)』

齋藤ひとみ;二村健編著(学文社) 2012年度～

科目概要

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を理解するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、サーチエンジン、電子資料、コンピュータシステム等について、学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. コンピュータとコンピュータ・ネットワーク、データベースの基本を理解する。
2. 図書館が実現しておくべき情報ネットワークについて理解する。
3. 図書館におけるさまざまな情報技術の活用について学ぶ。
4. 電子資料・電子図書館について理解する。
5. 図書館におけるインターネットの導入について考察を深める。
6. サーチエンジンの仕組みと図書館での活用について理解する。
7. Library2.0 とは何かを理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. コンピュータの基礎
2. コンピュータ・ネットワーク
3. データベース
4. 図書館業務システム
5. 電子資料と電子図書館
6. インターネットの活用
7. サーチエンジン
8. Library2.0

参考文献

各章末に参考文献を掲載しているので、学習を進める過程で参照して欲しい。

テキストに示したものの以外の参考文献を以下に例示する

- ①「特集 ICT 技術と図書館システムの環境の変化」『図書館雑誌』Vol.105, No.4
日本図書館協会, 2011.4
- ②日本図書館協会図書館の自由委員会”岡崎市の図書館システムをめぐる事件について”, 2011.3. 4,
<http://www.jla.or.jp/portals/0/html/jiyu/okazaki201103.html>
- ③ 井上靖代”オンライン・ネットワークと「図書館の自由」”
熊野清子”電子情報への自由なアクセス”
藤原明彦”「自動貸出機」の波紋”;竹島昭雄”再び『自動貸出機』を考える”
土井陽子”学校図書館へのコンピュータ導入とプライバシー保護”
山家篤夫”アドレス流出、スキルのレベルの問題か”
上記の記事は、すべて、下記「こらむ図書館の自由」(『図書館雑誌』連載中)で閲覧可能
<http://www.jla.or.jp/portals/0/html/jiyu/column.html>
- ④『図書館とIC タグ』清水隆[ほか]著, 日本図書館協会. 2005
- ⑤「特集 電子書籍と電子図書館」『図書館雑誌』Vol.105, No.6, 2011.6
- ⑥湯浅俊彦 ”公共図書館と電子書籍 -どう対応すべきか”『図書館雑誌』
Vol.105, No.2, 2011.2, pp.84-85
- ⑥佐藤友里恵 ”グーグル図書館プロジェクト: 慶應義塾大学における概要と現状”「特集 大学図書館 2011」『図書館雑誌』Vol.105, No.11, pp.750-752

評価基準

■レポート評価

- ・レポート作成の際には、「レポート課題・レポート作成に当たっての解説」を熟読の上、レポート課題が求める学習の要点を理解し、その要点を中心にまとめること。
- ・内容が主観的すぎるものについては不合格となる。テキストを熟読の上、内容をよく咀嚼してまとめること。また、参考文献などにも積極的にあたってレポートを作成すること。
- ・他人の著作物(Web 上のものを含む)から引用する場合は、引用箇所を明記し、その出典を明らかにすること。Web 上の情報の場合には、URL とアクセス日を明記すること。
- ・盗作や剽窃は評価の対象とせず、判明した時点で即不合格とする。

■科目終了試験評価

- ・科目の学習要点事項についてしっかり学習した上で、出題の主旨を理解し、求められている設題についてきちんと回答すること。科目の学習要点事項を踏まえていない場合には、自身の経験や自説をいくら述べても評価されない。
 - ・設題にはすべて回答すること。一方の設題について回答していない場合には、もう一方の回答がすばらしくても不合格となる。
- 直接レポート課題で取り上げていなくても、テキスト各章末の設問には取り組み、重要事項については理解を深めておくこと。

『ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望6 図書館サービス概論』

平井歩実, 二村健編著(学文社)

2019年度～

科目概要

今日、公共図書館は本を無料で借りることのできる場所だということは、人々の認識として定着したと言ってよい。しかし、図書館が行っているサービスは、貸出だけではない。「すべての人に図書館サービスを」「地域の情報拠点として」を理念に掲げ、生涯学習の重要な拠点として、幅広いさまざまなサービスを行っている。だが、多くの人は図書館がどんなサービスを行っているかを充分知っているとはいえない。現在の多様な図書館サービスについて、意義や基盤となる制度・仕組みを学び、具体的に理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

他館種の図書館に比べて、公共図書館には多種多様な利用者がいて多種多様なニーズをもつ。利用者層は時代と共に変化し、その情報ニーズも時間と共に変化する。図書館はそれぞれの時代・年齢層の情報ニーズに沿った資料提供と情報提供をしている。その意義を考察し、様々なサービスの形態を学習し、いかに展開させるのかを今日的な諸問題を踏まえて考察し実践に備える。

■ 科目の学習要点事項

1. 図書館サービスの考え方・構造と変遷
2. 資料・情報の提供
3. 図書館サービスの連携・協力
4. 多様な図書館サービス
5. 図書館サービスと著作権
6. 図書館サービスの課題と展望

参考文献

- ① 『これからの図書館像—地域を支える情報拠点をめざして(報告)』文部科学省、平成18年3月
- ② 『これからの図書館像(実践事例集)』文部科学省、平成18年3月
- ③ 『ユネスコ公共図書館宣言』UNESCO、1994年
- ④ 『図書館の自由に関する宣言』『図書館員の倫理綱領』『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準』『図書館学の五法則』
- ⑤ 図書館法、学校図書館法、著作権法、個人情報保護法、社会教育法

評価基準

■レポート評価

解説に書かれた内容に沿ってテキストの学習要点事項を理解した上で、自分自身で考察しているか、キーワードをとらえて自分の言葉でまとめ、論じることができているかが評価のポイントとなる。テキストの引き写し(引用の範囲を超えているもの)、インターネットサイト上からの引き写し(引用の範囲を超えているもの)は評価の対象外とする。

■科目終了試験評価

問題はテキストやレポートに即しているので、把握したキーワードや重要事項を中心に据えた論述であるか、またその展開の仕方やその深さはどのくらいかで評価する。

『情報サービス論』 竹之内禎編著(学文社)

2014年度～

科目概要

情報サービスは、図書館員の専門性が求められるレファレンスサービスが中心だが、その理論および実践に向けての基礎知識を学習する。また、利用者からのレファレンス質問を受けるだけでなく、積極的に調査方法について発信する側面も取り上げる。さらに、情報サービスをおこなううえで知っておくべき知的財産権についても扱う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

演習に向けて、レファレンスサービスの基礎理論と図書館の情報資源を用いていかに利用者に情報サービスをおこなうかについて、レファレンス・ブック(参考図書)からコンピュータでの検索ノウハウの基礎知識、レファレンスのプロセスについて、回答の際に踏まえておくべき著作権をはじめとする知的財産権の基礎知識を身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. レファレンス・サービス
2. 教育機能と情報提供機能
3. レファレンス・インタビュー
4. 情報検索
5. 知的財産権

参考文献

- ① 『問題解決のためのレファレンスサービス』(新版) および『情報源としてのレファレンスブックス』(新版) 長澤雅男, 石黒祐子著(日本図書館協会)
- ② 『図書館と情報技術: 情報検索基礎能力試験の過去問題と解説収録』岡紀子, 田中邦英著(樹村房)

評価基準

■ レポート評価

課題が求める学習の要点を正確に理解し、テキストと、紹介している参考文献も含めて学習を深めて考察してほしい。要点を網羅的に整理できているか、的確なキーワードを把握し自分自身の表現で記述しているか評価する。

■ 科目終了試験評価

問題はテキストやレポートに即しており、出題範囲は広い。テキストや合格したレポートの記述を整理し、重要事項についてキーワードを中心に説明できているかが重要である。

『ベーシック司書講座 図書館の基礎と展望 8 図書館情報資源概論』

藤田岳久編著(学文社)

2017年度～

科目概要

図書館情報資源(印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源)について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存という、図書館サービスに必要な基本知識を得る。また、図書館のコレクション形成(蔵書構築)のための図書館情報資源の選定の根幹となる理論と、実際の選定に伴う課題について考察する。また、地域の情報拠点として、各々の図書館が独自で収集提供しなければならない資料について、入手方法提供方法も含めて理解する。

さらに、情報資源の出版と流通の仕組みについても学ぶ。

現在、公共図書館喫緊の課題となっている電子書籍提供の現状と課題についても今後の展望を含めて考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 図書館情報資源とは何か、また個々の図書館情報資料の特徴・利用上の特徴を把握しておく必要があることを理解する。
2. コレクション形成(=蔵書構築)の際に、利用者の資料ニーズを反映させる必要があること、また、その方法を理解する。
3. コレクション形成(=蔵書構築)の選書理論について、歴史的な経緯と今後、どうあるべきか、日本の出版流通事情を含めて考察する。
4. 各々の公共図書館が地域の情報拠点となるために、独自に収集、提供しなければならない図書館情報資源について理解する。
5. 人文科学、社会科学、自然科学・技術の各主題分野における学術情報の生成、流通、保管、利用のプロセスについて理解を深める。
6. 上記学術情報の公共図書館での提供について理解を深める。
7. 電子環境下における図書館情報資源の提供について理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 図書館情報資源とは何かを知る。
2. 図書館情報資源の種類と図書館の対応(図書館への導入)について
3. 利用者の情報ニーズ(資料ニーズ)を把握する。
 - (1) 利用者の一般的な情報ニーズと図書館の利用
 - (2) 利用者の情報ニーズを分析するための各種方法
4. 図書館情報資源の選択論と選書基準
 - (1) 価値論と要求論:それぞれの利点と欠点
 - (2) 日本の出版流通の仕組みと現状
 - (3) 図書館資料費の現状と(2)を踏まえた上で選書基準のあり方
5. 分担収集・分担保存の必要性和そのあり方

6. 地域資料、行政資料の収集と提供
7. 学術情報の特徴、公共図書館での提供
8. 電子環境下における情報資源の収集と提供

参考文献

- ①『これからの図書館像—地域を支える情報拠点をめざして(報告)』
文部科学省、平成18年3月(Web上から入手可能)
- ②『これからの図書館像(実践事例集)』文部科学省、平成18年3月(Web上から入手可能)
- ③「特集 大学図書館の地域開放」『図書館雑誌』
Vol.94,No.10,2000.10,pp.768-781(少し古い。個別記事にはもっと新しいものがある)
- ④ビジネス支援図書館推進協議会<http://www.business-library.jp/>
- ⑤日本図書館協会健康情報委員会<http://www.jla.or.jp/committees/kenko/tabid/266/Default.aspx>
- ⑥「特集 2025年問題を見据えた健康・医療情報サービス」『みんなの図書館』No.470, 2016.6
- ⑦「特集 医療・健康情報を市民へ」『図書館雑誌』Vol.105,No.1,2011.1
- ⑧『デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会』2010年6月
http://www.soumu.go.jp/main_content/000075191.pdf
- ⑨『電子書籍ビジネス調査報告書2016』インプレス総合研究所編(インプレス)
- ⑩「特集 公共図書館と電子書籍の今」『図書館雑誌』 Vol.107,No.12,2013.12
- ⑪尾城 孝一, ”大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)の活動と今後の展開”『図書館雑誌(特集 大学図書館 2012)』 Vol.106,No.11,2011.11,pp.761-764

評価基準

■レポート評価

この科目はある程度、テキストの内容を端的に要約する力が求められる。要約するには正しく理解されていないと
はならない。

また、今動いている、喫緊に取り組まなくてはならない課題もあり、これはテキストだけではなく、自分で情報収集
をしなくてはならない。特に後者は負担が大きい。図書館員は、利用者に情報収集方法を伝える役割も担って
いるので、テキストだけでお茶を濁すと合格には至らない。必ず、理解しておかなければならない、考察しなけ
ればならない部分が多いので頑張って取り組んで欲しい。

■科目終了試験評価

テキストの内容だけでなく、自分自身の考え、また、最近の動向についても、レポート課題としているので、みなさ
んが調査した範囲からも内容を問うものになる。

『ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 7 児童サービス論』

二村健 監修(学文社)

2015年度～

科目概要

現在の公共図書館で行われている、乳幼児から青少年(ヤングアダルト)を対象としたサービスの意義、歴史、現状、今後の展望について考察する。

まず、概ね 18 歳までの子どもにとっての読書の意義について理解し、実際に公共図書館で提供されている、個々のサービスについて理解する。特別な支援、資料を必要とする子どももちろん含めて考察するのを忘れてはならない。

また、これらのサービスを提供するための児童サービス担当図書館員、ヤングアダルトサービス担当図書館員に求められる知識、技能について理解すると同時に、課題についても考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 児童サービスの意義と目的を理解する。
2. 子どもと本を効果的に結びつけるさまざまなサービスについて理解を深める。
3. 国、都道府県、市町村の読書推進計画を理解し、分析し、評価し、今後の展開を考察する。
4. 身近な公共図書館の児童サービスの現状と施策を自分自身で調べ、分析し、考察することができるようになる。
5. 自ら具体的なサービスの計画を立案できるようになる。
6. 特別な支援を必要とする子どもへのサービスと資料

■ 科目の学習要点事項

1. 児童青少年と読書、
2. 児童サービスの理念、目的、役割
3. 発達段階と読書、読書能力の発達と読書興味の発達
4. ブックスタート、読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、
5. ヤングアダルト・サービス
6. ビブリオバトル、POP
7. 児童サービス担当者、ヤングアダルトサービス担当者の役割
8. 児童図書館の施設、設備、運営
9. 児童ヤングアダルトサービスに関する施策

参考文献

- ① 子どもの読書活動の推進に関する法律
- ② 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)
- ③ 文字活字文化振興法
- ④ 各都道府県、市町村の子ども読書推進計画
- ⑤ 『読書と豊かな人間性』黒古一夫、山本順一編著(学文社)
上記、①～④はWeb上から入手可能

評価基準

■レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解すること。

テキストで学習したことはもちろん基本であるが、テキストだけで済ませるのではなく、関連資料や必要な資料を読む、もしくは入手して作成すること。

資料の丸写しや単なる抜粋では評価できないので注意すること。

■科目終了試験評価

問題はまず、レポート課題に即して出題する。したがって評価はどの程度、自分自身で調べてレポート課題に取り組んだかによることになる。また、児童サービスに特有の用語が理解できているかについても確認する。

使用テキスト

配本年度

『情報資源組織論(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望3)』

榎本裕希子、石井大輔、名城邦孝著(学文社)

2020年度～

科目概要

図書館情報資源(印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる)の組織化の理論を解説する。書誌記述法(メタデータを含む)、主題分析、書誌コントロール、ネットワーク情報資源の組織化、等について学習し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 図書館情報資源の組織化における主題目録法の意義について理解する
2. 図書館情報資源の組織化における記述目録法の意義について理解する
3. 図書館での分類の特徴を理解する
4. 『日本十進分類法』(新訂10版)を中心に分類表について考察を深める
5. 件名(目録)法の全体像を理解する
6. 目録記入の構成要素について、その機能を理解する
7. 『日本目録規則』(2018年版)を中心に目録法について考察を深める
8. 大量の情報資源を効率よく組織化し、利用者に情報を提供していくための方法として、集中目録作業と共同目録作業の意義と機能について学ぶ
9. ネットワーク情報資源の組織化とそのためのメタデータについて理解する
10. 各図書館が独自に構築しなければならない情報資源とそのための組織化について考察する
11. FRBR、フォクソミーという新たな情報資源組織化の動向を把握する

■ 科目の学習要点事項

1. 資源組織化における目録作成・分類業務について
2. 書誌コントロール
3. 書誌記述
4. 『日本目録規則』2018年版
5. 主題分析
6. 書架分類と書誌分類
7. 『日本十進分類法(NDC)』(新訂10版)
8. 件名と『基本件名標目表(BSH)』(第4版)
9. 集中目録作業と共同目録作業
10. 書誌ユーティリティ、総合目録
11. オリジナルカタログニング、コピーカタログニング、独自の分類表の作成
12. ネットワーク情報資源とメタデータ
13. FRBR、フォクソミー

参考文献

- ① 情報資源組織法：資料組織法・改』志保田務；高鷲忠義編著、第一法規、2012
- ② 『日本目録規則』2018年版、日本図書館協会、2018
- ③ 『日本十進分類法』新訂10版、もりきよし原編；日本図書館協会分類委員会改訂、日本図書館協会、2014
- ④ 『基本件名表目標』第4版、日本図書館協会件名標目委員会編、日本図書館協会、1999
- ⑤ 国立情報学研究所、学術機関リポジトリ構築連携支援事業 <http://www.nii.ac.jp/irp/list/>
明星大学が発信する研究論文(明星大学機関リポジトリ) <http://repository.meisei-u.ac.jp/>
- ⑥ 『現在[イマ]を生きる地域資料：利用する側提供する側』平山恵三、蛭田廣一著(多摩デポブックレット；4)、けやき出版、2010.11

評価基準

■レポート評価

- ・レポート作成の際には、「レポート課題・レポート作成に当たっての解説」を熟読の上、レポート課題が求める学習の要点を理解し、その要点を中心にまとめること。
- ・内容が主観的すぎるものについては不合格となる。テキストを熟読の上、内容をよく咀嚼してまとめること。また、参考文献などにも積極的にあたってレポートを作成すること。
- ・他人の著作物(Web 上のものを含む)から引用する場合は、引用箇所を明記し、その出典を明らかにすること。Web 上の情報の場合には、URL とアクセス日を明記すること。
- ・単なるテキストの書き写しや要約、盗作や剽窃は評価の対象とせず、判明した時点で即不合格とする。

■科目終了試験評価

- ・科目の学習要点事項についてしっかり学習した上で、出題の主旨を理解し、求められている設題についてきちんと回答すること。科目の学習要点事項を踏まえていない場合には、自身の経験や自説をいくら述べても評価されない。
- ・設題にはすべて回答すること。一方の設題について回答していない場合には、もう一方の回答がすばらしくても不合格となる。直接レポート課題で取り上げていなくても、テキスト各章末の設問には取り組み、重要事項については理解を深めておくこと。

使用テキスト

配本年度

『図書・図書館史』千錫烈編著(学文社)

2014年度～

科目概要

情報を記録し伝播させるという行為が、人類の文化と社会の発展にとってどういう意味をもってきたのか、図書館の成立から発展過程を知り、現代および将来展望を考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

古代、中世、近世、近代、現代、さらに今後の図書館の発展について、東西の長い歴史の流れの中で理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 古代の図書館
2. 中世の図書館
3. 近世の図書館
4. 近代の図書館
5. 現代の図書館

参考文献

- ①『図書館史・総説』藤野幸男著(勉誠出版)
- ②『日本図書館史概説』岩猿敏生(日外アソシエーツ)

評価基準

■ レポート評価

課題が求める学習の要点を正確に理解し、テキストと、紹介している参考文献も含めて学習を深めて考察してほしい。要点を網羅的に整理できているか、的確なキーワードを把握し自分自身の表現で記述しているか評価する。

■ 科目終了試験評価

問題はテキストやレポートに即しており、出題範囲は広い。テキストや合格したレポートの記述を整理し、重要事項についてキーワードを中心に説明できているかが重要である。

『図書館施設特論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望9)福本徹著(学文社)

2012年度～

科目概要

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を理解する。

(テキストは第13、14章をバーチャル図書館の設計演習にあてているが、ソフトウェアが必要になるため、課題の範囲には含めないが、学習した内容を実際に設計に活かしてみたい方は、各自でチャレンジしてみたい。))

学習上の目標

■ 科目の到達目標

地域全体の住民が図書館サービスを利用しやすく、十二分に図書館を活用できるようにする環境を整えるための、望ましい図書館配置、図書館施設について理解する。その上で、図書館の配置計画、施設計画を立案するための基本的知識を身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. 自治体の特色、住民の特色
2. 図書館サービスと場所としての図書館
3. 図書館配置計画
4. 図書館施設計画
5. サイン計画
6. 図書館の危機管理(防災、防犯)と図書館施設1. 古代の図書館

参考文献

テキストの各章末に参考文献を提示してあるが、特に重要なものを含めた。

- ①『よい図書館施設をつくる』(JLA 図書館シリーズ 13)植松貞夫[ほか]著(日本図書館協会)
- ②『図書館建築:施設と設備』(図書館学シリーズ9)植松貞夫著(樹村房)
- ③『シリーズ図書館の建築』(1～3)(日本図書館協会)
- ④「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」

評価基準

■ レポート評価

本科目に関しては、テキストはレポート作成のための基礎知識を得るための情報源である。実際に自分で必要な情報を入手しなくてはならないので大変であるが、実際の図書館建設、施設設計は各地域ごと、図書館ごとに適用させなければならないのは当然であるので、ぜひ、企画力応用力を育てて欲しい。

■ 科目終了試験評価

配置計画、施設計画の基礎知識を問う。また、実際にレポートを作成した成果を反映できる出題をする。